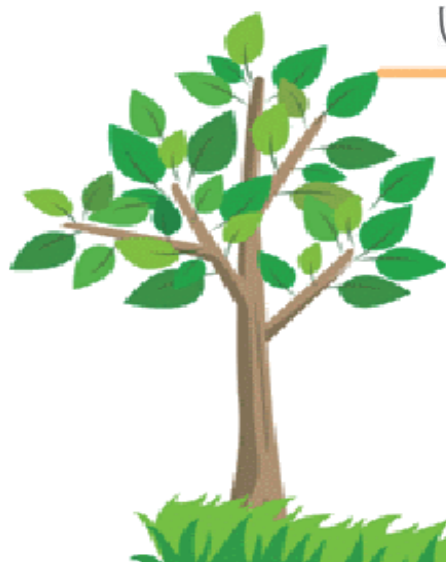


いやしのひととき



千代田日記

～ちよだにっき～

今月のごあいさつ

「金」はお守り

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、今年も残すところあとひと月を切りました。

年が明けると神社やお寺に初詣に行かれると思います。その際、お守りを買われる方も多いのではないのでしょうか。「家内安全」「交通安全」「商売繁盛」「安産祈願」等色々あります。

その一つに「金」をお守りとして持つことを考えていただけないでしょうか。世の中が不安定、経済が不調になれば、金の価値は増します。社会不安時にあなたを守ってくれるお守り、それが「金」です。このようにお考えていただければ、金を保有する意義をご理解いただけるのではないかと思います。

来る年も金保有の意義を一人でも多くの方に知っていただけるよう励んでまいります。

本年もいろいろお世話になりました。来る年が皆様にとって幸多い年になることを祈念いたします。



ご存知ですか？

年末に演奏されるクラシックと言えばベートーベンの第九も良いですが、欧州ではヘンデルのメサイヤも良く演奏されます。

1685年、巨匠バッハと同じ年に生まれ同じドイツのハレで生まれたヘンデル。イタリアでの経験を生かしロンドンに渡り以降オペラの創作に励む。

メサイヤは、オペラではなくオラトリオ、というジャンルに分類されます。宗教的テーマを持ったオペラで、舞台上で演じない以外は同じです。音楽はドラマにあふれています。有名なハレルヤコーラスでは初演時ジョージ2世が立ち上がったことから今でも習うことも多いようです。



算

紅白歌合戦の視聴率

暮らしの足し

年末恒例のNHK紅白歌

合戦は、かつて驚異的な視聴率をたたき出す、「国民的番組」の代表格でした。一九六

三（昭和38）年には81・4パーセントというピークの値を刻み、その後も、一九八

四（昭和59）年まで70〜80パーセント前後の高い値を維持していました。多くの国民が、年越しと言えばこの番組を見ていたことのあらわれでしょう。

けれども、いわゆる「バブル期」と

言われた一九九〇年代には変化が見え始め、平均視聴率は50パーセント前後へと落ちていきます。その後、インターネットの普及の影響が、30

パーセント台まで落ちてしまいますが、二〇一〇年代に入るとやや回復傾向が認められ、

二〇二三（平成25）年には45パーセント近くまで回復します。



これは、二〇一一年の東日本大震災が、「家族の絆を再確認する」という想いを国民にもたらした影響……という見方もあります。つまり、日本

の歩みや国民の意識が、紅白の視聴率にも少なからず反映されるようなのです。

ちなみに、昨年の平均視聴率は、42・2パーセントでした。今年も様々な出来事がありました。それらは

紅白の視聴率へどんな影響を及ぼすでしょうか？ 一方で、世相とは関係なく、家族で過ごす大切なひとときととらえ、パソコンやスマホを離れ、みんなで一緒にテレビに向かうのも素敵ではないでしょうか？

練習は本番のつもりで

本番は練習のつもりで

漫画「宇宙兄弟」より

「宇宙兄弟」は、講談社の漫画雑誌『モーニング』にて二〇〇八年から連載中の作品です。テレビアニメ化や実写映画化などもされ、高い人気を誇っています。少年の頃、謎の

UFOを目撃した南波六太とその弟・日々人が「一緒に宇宙飛行士になろう」と誓い合います。エリート

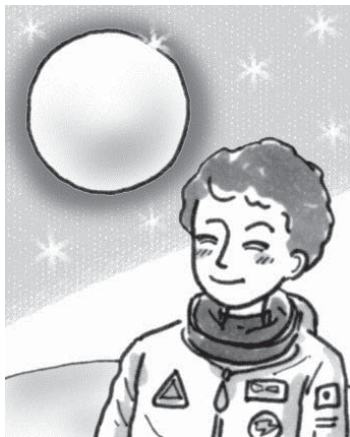
の弟は先に宇宙飛行士になったものの、兄は勤め先をクビになり、無職に。そんな時に弟から来た

メッセージをきっかけに、兄も再び宇宙飛行士を目指そうと考えるようになる、という近未来の話です。

「兄弟で一緒に月に立ちたい」という壮大な夢のために、様々な試練や葛藤を乗り越えながら進んでいく二人の姿が描か

れますが、主人公の六太が、決して「スーパーヒーロー」ではなく、素朴さや温かさにあふれた共感できる人間として描かれているのも人気の理由と言えます。

現実社会を生きる私たちにあって、自らの力を試され、挑戦を求められることはたくさんあります。「難しい試験を受ける」「ノルマの達成」「大事な役割を与えられる」など、緊張する場面も少なくないでしょう。そんな時に、それまで積み重ねてきたものを最大に活かせるよう、冒頭の言葉を意識して挑んでみるのもいいかもしれません。



な

ご

み

ひ

と

さ

じ



忠臣蔵の真実？

中松之大廊下で、赤穂藩藩主・浅野内匠頭が、吉良上野介に突然切りかけたことを発端とします。多くの人が、浅野が吉良に圧力を受けていた、いわゆる、「いじめ」のような目に遭っていたことから憤慨して切りかかり、それをとがめられて切腹に至り、浅野の家臣たちがたき討ちのために吉良を殺害……というストーリーとして認識しているでしょう。創作でも、多くが、吉良はいじわるな権力者として描かれ、主

の仇を討った赤穂四十七士は忠義心厚きヒーロー集団としてもてはやされます。

けれども、実はこの「忠臣蔵」の話は、実際の事件のあと数年たってから歌舞伎にするために作られたものであるため、数多くの脚色を加えられており、それが現在ではまるで事実のように語られているとされています。

まず、浅野が吉良に切りかかった「松の廊下」とされている江戸城の廊下ですが、本当は何もないただの白い障子の廊下だったようです。歌舞伎などでは映えないので、演出上「松の廊下」にされたものが、事実のように伝えられています。

また、討ち入りしたのは四十七人とされていますが、実際は、四十六人だったそうです。「いろはにほへ」とが四十七字であったため、それに合わせるために一人架空の人物を加えたとされています。

浅野内匠頭が吉良上野介を斬りつけた理由は、いじわるをされているからではなく、もともと悪いのは赤穂藩という説もあります。産米が米がなくて困窮していた浅野家は、塩の製造販売で潤っていた吉良家から塩の製造方法を伝授してもらいました。ところが浅野家は、塩が作れるようになり、大阪である程度実績を作ると、次に吉良家の塩が高いシェアを占めていた江戸に進出。吉良家から塩の販売シェアを

奪っていったのです。そんな浅野の不義理な行動のために両家に争いが絶えなくなった、というのが発端であり、決して吉良上野介が理不尽なパワハラをしていたのではないようです。

歴史を描いた創作物には、確かに史実とは異なった解釈が与えられている、人物のイメージが植え付けられたりということがあります。それでも、多くの人は「歴史学者」ではないのですから、「フィクションを楽しむ」という気持ちで触れる方が楽しそうです。

師走になると毎年のようにテレビや映画などで放映される「忠臣蔵」。知らない日本人はあまりいないのでは？というほど、有名なお話です。

けれども、実はこの「忠臣蔵」の話は、実際の事件のあと数年たってから歌舞伎にするために作られたものであるため、数多くの脚色を加えられており、それが現在ではまるで事実のように語られているとされています。

まず、浅野が吉良に切りかかった「松の廊下」とされている江戸城の廊下ですが、本当は何もないただの



心得の教科書

お屠蘇（とそ）のマナー

「お屠蘇（とそ）」は、酒や

みりんで生薬を浸け込んだ

一種の薬草酒。邪気を払い、

無病長寿を祈り、心身ともに

あらためて出発しようとい

う願いを込めていただく、お

正月ならではの記念酒です。

元日の朝、若水（元日の早

朝に汲んだ水）で身を浄め、

初日や神棚、仏壇などを拝ん

だあと、家族全員そろって新

年の挨拶をし、雑煮やおせち

料理の前に、お屠蘇をいただ

きます。使われる酒器は、朱

塗りまたは白銀や錫などの

お銚子と、朱塗りの三段重ね

の盃が使われています。

お屠蘇をいただくときは

は、一家揃って東の方角を向

きます。一般的な宴席では、

年長者から盃を下げていき

ますが、お屠蘇は逆で、年少

者から年長者へ順

に盃を進めます。若者の精気

を年長者に渡すという意味

が含まれているそうです。

飲むときには、結婚式の

三々九度と同じように、注ぐ

ときは二度注ぐ形をして三

度目に注ぎ、飲むときも二度

口をつける形をして、三度目

に飲みます。盃は手を「入」

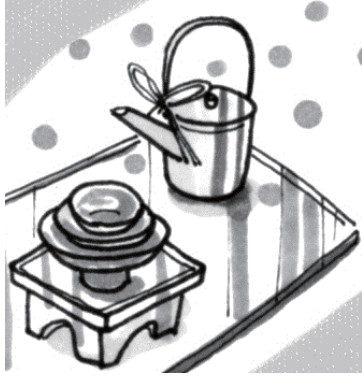
の形に重ねて持ち、体の正面

で胸の高さに上げて受けま

す。飲めないときは、注がれ

るときに量を少なくしても

らい、軽く口をつけます。



★アメリカ＝米国 はなぜ★

アメリカ合衆国のことを、「米国」と呼ぶのはなぜ？

- A. アメリカから米作りが伝わったから。
- B. 昔、漢字で「亜米利加」と書き表したから。
- C. 国の形が稲穂に似ているから。



【正解】 B

【解説】 現在は、外国の国名や地名はカタカナで表しますが、明治時代までは漢字で表すのが一般的で、例えば、アメリカやイギリスやフランスのことは、漢字の音だけを利用

して、それぞれ「亜米利加」（「米利堅」という説もあります。）「英吉利」「仏蘭西」と書いていました。今でも、アメリカを「米国」、イギリスのことは「英語」と呼ぶのは、そのなごりなのです。